

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会教育委員会議小委員会(第1回)		
事務局 (担当課)		生涯学習課 電話042-769-8286(直通)		
開催日時		令和 5年 5月 2日(火) 10時00分~12時00分		
開催場所		相模原市役所第2別館5階 教育委員会室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	6人(生涯学習課長、外5人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 不可 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 調査結果について (2) 今後のまとめ方について		

議 事 の 要 旨

1 議題

(1) 調査結果についてと (2) 今後のまとめ方について事務局資料説明の後、秦野委員長の進行により議事が進められた。

(秦野委員長)

ヒアリングの結果は大きな分類で傾向がわかるようにまとめてあり、クロス集計は公民館の催しに参加したいと思っている人はどういう事業に参加したいと思っているかを集計している。事務局から説明があったが、一旦皆様にお目通し頂く。

(全委員)

資料確認

(秦野委員長)

本日の議題は、調査の結果についてと、まとめ方についてとなっているが、調査の結果をそのまま出してしまうのではなく、社会教育委員会議としてどのような報告書にまとめていくのか、本日の段階で大まかな組み立て方を議論したい。スムーズに意見交換ができるようメモを用意した。事務局に配布をお願いするので、配布したメモを参考に、皆さんからご意見をうかがっていききたい。

(古矢委員)

秦野委員長からいただいたメモの1番最初に書かれているように、堅い報告書ではなく子どもでも読みやすいものにしたい。

議題は調査結果とまとめ方の2本立てになっている。まず調査結果だが、公民館職員が回答を書いた設問が7問、社会教育委員によるヒアリングが7問、そのほかにもいろいろなデータが参考として上がってきている。設問、ヒアリングの7問を分解してみたが、そこで見えてきたことは、公民館職員の皆さんは熱意をもって関わっておられる。32館が並んで一生懸命に力を出している公民館は全国でもそう多くはない。そのあたりをしっかりとまとめて、最初にそれを汲み取って、市民にも伝わるように発表したい。

公民館の催しに参加したいのだけれども、なかなか参加できないという意見が、10年前も今回もデータに表れている。今回はそれを崩すきっかけになるのではないかと、そう考えている。

それと公民館職員だけではなく、専門部の皆さんの自発性が極めて高い。お互いに協力してプログラムを作っている。そういった実態が見えているので、これを報告書に取り上げない訳にはいけないと思っている。ありきたりの報告書を作って、積んでおくだけでは困るので、手に取って見てもらえるものにしたい。

また、ちょっと足りない部分もあって、例えば、本当に各館横並びのやり方で良

いのか、という問題が各館の意見にも出てきている。それから、立地条件の問題もあり、大野南公民館は南区役所の建物の中にあって、若い人たちは周囲に沢山いるけども素通りされてしまう。相模湖公民館は立地は良いものの、人が少ないため来館者が少ない。開館時間が地域の皆さんの実情に合った開館時間になっていないのではという意見もある。

研修については有名な方が講師になって、上から下に流すような研修ではなく、公民館職員が手を挙げて順番に登壇していただくような、押しつけではない、そういう研修ができれば素晴らしい公民館になるのではないかと。

調査結果のまとめ方については、秦野委員長のメモに賛成で、所見とデータをまとめた報告書より、このようなイメージ、形にすると未来が開ける、相模原の公民館の特色が発揮できる、そういうまとめ方が良いと思う。

(秦野委員長)

結果を分析し、こういう中身を入れたらという意見をいただいた。他にもヒアリングでは確認していなかったダイバーシティの問題なども押さえておく必要があると思うし、過去に定例会と小委員会でSDGsについて触れる必要があるという意見があったり、社会が目指していることにも触れておく必要があると思う。それらをどこにどういう形で入れていくのか、最初に入れるのか、研究調査の3本の柱を決める際、このように考えて決めましたと入れるのかなど、ご意見をいただきたい。

(雨宮委員)

相模原市は広いので地域のニーズを拾えるようなやり方、ヒアリングでも意見があったが、そういう柔軟なことが必要ではないかと思った。

公民館の方々の研修講師は、立場の違う方を外から呼ぶのではなくて、同じ立場で実践されている方が講師になって「みなさん一緒に考えませんか」という機会があると面白いと思った。その他に登録と予約の問題があって、これは本当に何とかしたいという、ヒアリングの結果でもそういうメッセージを感じる。いまの時代にマッチしていないのではないかと。公民館の方々が本当に何とかしたいということが反映されていたほうが良いと思う。

公民館を色々な人に活用してほしいという想いを伝えたい。公民館は街を歩いていても素通りされてしまう。「皆さん来てください」とメッセージを出しているが、どうしても見た感じなのか、そういう感じがあまりないという気がする。「入りづらい」「使い方がわからない」そんなイメージで公民館に来るのを躊躇してしまうように感じる。公民館というのは「市民に開かれていますよ」「もっと気楽に使えますよ」そういうメッセージがあると若者層も「ちょっと行ってみようかな」となるのかなと思った。

(秦野委員長)

雨宮委員の意見は大枠で触れておきたいのか、具体例を入れながら整理するのが良いのか、研究調査の3本の柱と重なる部分は出だしでは触れる必要があると思うが、それについて綿々と書いてしまうと長くなる恐れがある。

(雨宮委員)

現状には少し触れるだけとして、具体的な課題を否定的な言い回しで指摘するのではなく、例えば、「柔軟な予約システムの構築」のような解決策、提案のようなものを入れると良いと思う。

(秦野委員長)

研究調査の3本の柱のひとつに「子ども・若者を支え、生かす機会と場づくり」があるが、単にスペースを用意するという意味ではない。利用の仕方、利用する様々な人にどう対応するか、具体例を入れながら書くイメージを持っていたが、そこに今いただいた提案を追加するということが良いか。

(雨宮委員)

そのような盛り込み方だと思う。

(水谷委員)

資料を読んで改めて思ったのが、社会教育の中で公民館というのは、市民の社会参加を促すところということ。その上で感じたのは、相模原市の公民館は多様性、大きい枠組はあるがその中でも公民館には多様性がある。そこをもっと市民に知らせても良いのではないか。マップに起こして公民館の特徴を書いてみても面白いのではないか。

もうひとつ思ったのが、職員に熱意がある。いろいろ課題はあるが職員が進化していく方向性、何を目指しているかを市民に知ってもらっても良いと思う。

その上で社会参加をもたらす3つのこと、1つ目は場、単に場所を提供するだけでは意味がなく、利用しやすいことと社会参加のための場であることが必要。

2つ目が、社会参加という意味では、学校は勉強というくくりで集まっていて、会社は利益のために集まっているが、趣味のために集まる場は少ない。その場づくりを公民館が果たしてほしい。趣味で集まるというのが人が一番集まりやすいと思うが、その趣味をきっかけに社会参加する場を提供する役割を公民館は期待されているという気がする。

3つ目は情報。公民館が示す情報と言うのは、それが何かということが分かると、人が集まって来ると思う。その辺りは職員の伝える力が課題かと思う。

(雨宮委員)

私は情報ではなく体験だと思う。今の人たちはウィキペディアで調べて知った気になってしまう、YouTubeを見て知った気になってしまう。しかし、それは違うと思う。体験することで人は育つのではないか、知るのではないか。

それが公民館のような人が、リアルに集まる場所の大きな役割だと感じている。

(秦野委員長)

入れ込みたい想いと言うのは、皆さん今のところ共通しているように思うが、面白いと思ったのは水谷委員のマップに公民館の特徴を書くという意見。場所だけではなく、売りと言うか、推しのポイントみたいなものを入れても良いと思う。皆さんがヒアリングして来た中にも推しポイントが書いてあるので、それを整理して書いても面白い。すごく良いアイデアだと思う。

(若林委員)

私が社会教育委員をやっていると言ったときに、社会教育委員とは何ですかと市役所の職員から聞かれたことがある。私もうまく説明できないところがあったと思うが、社会教育委員という言葉が堅いのかなと思った。同様に市民にとって、公民館という名称は知っているが、それが社会教育の場だというのは、まず繋がらないだろうと感じている。

今後公民館をどのようにデザインしていくかを考えるためには、32館が全て同じ方向ではなく、それぞれの地域に合った公民館をどういう方向性で作っていくのか、それぞれの地域を見て考える必要があると感じた。どこも人手が足りない状況で今後公民館をどのように運営していくか、32館をどういう風にデザインしていくかが喫緊の課題だと思う。公民館の立地条件とか含めて考えていかないといけないのではないかと思う。

(秦野委員長)

研究調査の3本の柱に沿いつつも「32館これでやってください」というのではなく、「こういう館はこのようにすると良いのでは」という公民館が使いやすいアイデアを提供するということか。

(若林委員)

そのとおり。公民館の貸館予約もQRコードなどで部屋が空いていたら使えるようにできると良いのだが、現在は団体登録がないと予約できないという問題がある。ヒアリング調査でも「あれがもう少しゆるくなったら空いてる時間に使ってもらえるのに」という意見もあった。

(大谷副委員長)

橋本のようなビルの中の公民館があったり、田名のような土地の中の公民館があったり、場所によって利用者が多かったり少なかったりと、相模原の公民館は多様な地域性の中にある。しかし、相模原の公民館というのは、県内でも非常に素晴らしい公民館で、それぞれの地域性に合った公民館の成り立ちが進んでいる。とても良いことだと思っている。これからの課題は、それぞれの公民館の特色をどのようにアピールしていくのかだと思う。

話は変わるが、公民館の現状であるとか、社会教育委員とは何か、というのを知らない方が多いと思う。「こんなことやっている」、「こんなことを話し合っている」

とアピールすることも必要ではないか。

また、少人数で利用できるようにしたいという点についても課題として認識しており検討していきたいと考えている。

(若林委員)

今は窓口に行かないと団体登録ができないが、ネットで団体登録ができるようにならないか。

(松本生涯学習課長)

登録については、社会教育施設を利用する方の利用目的が政治・宗教そのようなものに該当するかもしれないという判断をしなければならない。どのような団体活動をするのか、対面で話を聞いて職員が目、耳で確認をさせていただき、そういう意味ではご不便を強いている。

(若林委員)

そこが若者が敬遠してしまう要因のひとつではないか。

(秦野委員長)

神奈川県ボランティアセンター交流スペースでは、その日に行って「日頃こういうことをやっているグループですが、使わせてもらえますか」という使い方がある。全館自由に使えるというのは難しいと思うが、この部屋は当日来ても「こういうことなら使える」そういう仕組みがあれば良いということは載せていきたい。多くの委員から公民館の使い方について意見が出ている。それに対してこんな事が出来たら良いという、私たちの願いのように出していけたら良いと思う。具体的には、「こんなやり方をしているところもある」などアイデアを整理して提示していけると良いと思う。

(秦野委員長)

水谷委員の意見で「社会参加の場」、「趣味も1つ」とあったが、厚生労働省の調査で、公民館活動でわいわい楽しく集まっている人たちが多いところは、地域包括センターの仕組みもうまく回っているらしい。なぜかというと、趣味で来てしゃべっている間に「あそこの家が大変そう」という話から「じゃあちょっと手伝ってあげようか」「声かけてあげようか」となっていくから。楽しい場所であることが求められていることはアンケートからも分かっている。そこにどういう人がいて、どういう声を拾って、「それならここに行くといいよ」とつなげられるか、それが公民館職員が、人が施設にいる役割だと思う。そんなことが前面に出るようなまとめにできたら良い。そこに地域の人づくりもそうだが、公民館で働く人たちのつながりづくり、人づくり、働くだけではなくて専門部の人たちとのつながりづくりのようなことも、欲張っているかも知れないが、伝えられると良い。

あとは、社会教育委員とはという自己紹介のようなことも足さないといけないと思う。社会教育法から引用するのではなく、わかりやすい言葉で伝えたい。

(古矢委員)

報告書だが、やはり手にして楽しい、楽しめる、そして面白い、公民館を紹介するときには人と触れ合える、人とのつながりが持てるということも入れていきたい。なぜかという、コロナの功罪と言うのか、あまりにもバーチャル、オンライン、衝立が間に入ったような世界で長い期間過ごしてきて、「やっぱりリアルが良い」となっている。人と触れ合える、つながることのできる場が公民館にあると、公民館がそういう場として機能してるということを謳っておくと、「じゃあ行ってみようか」ということになるのではないかという気がする。

(大谷副委員長)

「場所は知っているけど、行ったことない」という人がいる。

(古矢委員)

私たちはこの報告書を無味乾燥なものにしようとは思っていない、作り出していくことの楽しさ、報告書を生み出していくことの楽しさを持って臨んでと思う。そういうところを言葉として、あるいは姿として、報告書で見せるということが、読む人に一番訴えかけるのではないかと思う。

(秦野委員長)

私のイメージは、「である」調ではなく、中学生くらいに語り掛けるような書き方が出来たら良いと思っている。

(若林委員)

表紙もあまり堅い報告書のようなものではなく、誰もがバツと手に取って見てくれるような明るい表紙が良い。お金がかかってしまうかもしれないが。

(秦野委員長)

若林委員の意見のとおり、カラー印刷は無理だとしても、いかにも社会教育委員会議報告書というイメージではなく、誰が見ても「見てみようかな」と思えるタイトルで制作できると良い。

(若林委員)

社会教育委員会議報告書、何年度版みたいなものは違うと考えている。

(大谷副委員長)

中学生に配布したときに、「いいな、行ってみようかな」となればありがたい。

(秦野委員長)

大谷副委員長が言われたように、「地域の施設が何をやっているのだろう」というときに、社会教育委員が出したものを「見てみようか」、「公民館というのがあるよ」という、副教材とまでは無理かもしれないが、使ってくれる先生がいても良いくらいの、そんなイメージのものができたら良い。

(古矢委員)

公民館職員や専門部の皆さんが、私たちはプライド持ってやっていますという、

その一言が、どこかにちりばめられると良い。例えばコラムなどで「私たちはこんな思いでやっています」という一言があると実感できるのではないか。

(秦野委員長)

マップがあって、ここで一言みたいなのが入る。一言でも、大事なことも忘れずにという難しさはある。楽しさを作り出す場ではあるが、社会的な課題にも取り組みたいというような意見が公民館職員から出ている。それをどのように料理して出せば、地域の人に食べてもらえるのかが悩ましいところで、そのあたりのアイデアを出せると良い。

(雨宮委員)

私に関わっている若者たち、10代の子たちに多いが、彼らは多分、社会に興味がない。不満もなければ賛成もない。関わったって別に何もいいことがないという雰囲気をもすごく感じる。興味・関心がないというのが一番よくないところで、だからいきなり社会について伝えても何も入らない。では、何が良いかと言えば、まずは「人と仲良くなれて良かった」「体験できてよかった」「達成感があった」等、隣にいる人、近くにいる人への信頼感、それが社会への信頼感になって、世界が広がっていき、最後は自分への信頼感を取り戻す。そうして、気付けば自分は社会の一員になっていて、すごく遠くに感じていたことが、自分もその担い手の一人なのかもしれないと気づき、小さなコミュニティの自治に参加していくということが、社会教育の一端だと感じている。誰かに何かをしてもらうのではなくて、自分も一定の責任を持って自治に参加するという学びはすごく重要であると思う。

(秦野委員長)

東大の牧野篤先生が自治を説明するときそのような説明をされている。まずは信頼感を作っていく。社会は信頼で成り立っている、お金だって信頼で成り立っているから通貨たり得ているというようなことを、細かく砕いてお話しされている。公民館も信頼で成り立っていて、「あそこにいる人が楽しいから」「一緒に何かやりたい」「一緒にやったら達成できて面白かった」など、公民館とはそういう場所なので「そんな難しくない」、「ここから始めると良い」という提案を入れて行くと良い。

(若林委員)

どうしても学校、子どもの居場所みたいなものを私は考えてしまうが、不登校だった子に1つ、本当に小さいけど役割を与えた途端、次の日から学校に来られるようになった事例がある。自信を持つことで明日から学校に行こうという気持ちになることが実際にあるので、公民館が学校に行けない子たちの居場所になるのではないかとずっと思っていて、ヒアリングの時そういう話をさせていただいた。

(秦野委員長)

若林委員の意見は、大人にもつながる事だと思う。会社の肩書が無くなった途端

に何の役にも立たなくなると勘違いしてしまう、経験も力も持っているのに、生かす場所がないと勘違いしてしまう。外に出るといってもデイサービスに行くしか思いつかないという感じになって、結局外に出なくなる。何らかの役割、「あなたが来てくれてよかった」「助かった」ということがあると外に出ると思う。

(水谷委員)

趣味とか関心の集まりだと雨が降っても行ってみようかという気になって、参加する人が多い。そういう場所、きっかけで人々の関心の場を提供すると意外と集まる。そういう機会がもっと増えると良いと思っている。

(雨宮委員)

趣味は一つの口実というのか、それが呼び水となって人が集まりやすくなる。

趣味を通して人が集い、自分の居場所はここなんだ、という所属意識が醸成されて居場所に対するアイデンティティみたいなものが作られる。その活動拠点である公民館は地域の拠点でもあるので結果、地域の一員となっていき、それが社会につながっていくというイメージをもっている。

(秦野委員長)

一旦整理すると、骨子は柔らかい雰囲気でも中学生でも読んでくれるようなもの、最初の段階では社会教育委員の役割を自己紹介、「こんなことしていますよ」、「私たちこんな思いを持ってこんなことをやりましたよ」、公民館では、「職員がこんな風に頑張っている」、「公民館には魅力があります」など記載する。マップも付けて、推しを出すような楽しいマップにする。そして具体的に、社会教育委員として「公民館の未来が今後このようになったら良いと思っている」というのを、各委員研究調査の3本の柱に沿って具体例やヒントを出しているのを盛り込む。

「こんなことやったら公民館に来てくれそう」「こんなことやったら公民館に行きたいと思う」「貸館のシステムもこのように変えると公民館に行きやすくなる」ということを入れて、最終的に社会教育委員としても「今後はこんなことも考えていけないといけない」という課題的なことをまとめに加えていくような形で、報告書の構成を検討する形で良いか。資料等は別冊で整理する形で良いか。

(全委員)

反対意見なし

(秦野委員長)

報告書のまとめ方について、どのように整理するかは事務局と私で調整する、大まかな「こんな形で定例会に提案する」というのを調整して、小委員会の委員には一度定例会前に見ていただきチェックの後、大枠を定例会で提案するということがよいか。

(全委員)

反対意見なし

(秦野委員長)

次に社会教育委員として相模原の公民館の今後について、各委員から意見が出ているところで、角度を変えて整理しながら意見をいただきたい。仕組みの問題、中身の問題、雨宮委員の趣味の講座でも社会的な意味につながってくるという意見など、定例会に提案するときに「このようなイメージを私たちは整理しようとしている」というものを出せるようにしたい。今出ているのも整理し直すか。

(古矢委員)

一皮むけた公民館、そういう風なイメージが打ち出せることができれば良いのではないか。

(秦野委員長)

今までの意見の中で、研修なども講師を呼ぶだけではなくて、職員同士で講師をやれば良い研修になると聞いていて思った。著名な先生を呼んできて「公民館の理念とは」という講義ではなく、互いから学びあうように例を挙げていく。

場づくりのための公民館の使い方について、それと横並びの良さもあるが、各区に1つくらい拠点公民館を持って、単独館では人を集められない難しいことでもやる必要があるものに取り組む。もしくは、拠点公民館ではなく生涯学習センターで担い、公民館は地域の事、楽しいことだけやれば良いのか、拠点館の考え方は、大きな問題だと思うがこれについて意見はあるか。

(若林委員)

色々な催しが広報さがみはらに載っているが、中央区でのみ開催というのもあり参加しづらい。3区、緑区、中央区、南区で拠点館を作り3つに分けて開催したら中央区のみで開催では遠かった人も「南区で開催するのなら行ってみよう」という気持ちになると思う。催しによって中心になる公民館を作り、各公民館の企画を紹介するというのも良いと思う。

(秦野委員長)

この催しはここが拠点、のようにしても良いかもしれない。若者の当番は大野北とか。旧連絡所のスペースがあるから若者拠点はこの公民館、福祉関係の拠点はこの公民館、中央館を作るということではなく、取り組む課題ごとの拠点が良いということか。

(若林委員)

そのとおり。通級指導教室などを例にすると数校に1校置かれているが、公民館の場合は拠点を置くイメージ。

(大谷副委員長)

学校では窓口になっている所もあるが、公民館でもそういう窓口くらいはできるかもしれない。

(若林委員)

そのような企画を公民館に持ってきて、特定の曜日やこの月はこの公民館で開催する、そういう利用もあると思う。

(古矢委員)

各館では取り組み難い、社会的に単独館では採り入れにくい事業とか、そういう事業は拠点館でとまでは言わないが、実行館を設けて他の公民館も力を合わせてプログラムを作る。そういうシステムがあっても良いと思う。場所、距離の問題はあるにせよ何か見えてくるのではないか。各館共通で取り組むのは難しいと思うが。

(若林委員)

今までになかったものを取り入れていかないと、公民館に行こうかなという方には通じない。予約システムを変えるにしても、対面でないと登録できないところをどのように変えていくか。

(古矢委員)

雨宮委員が先ほど所属意識を育むような意見を出されたと思うが、とても大事なことだと思う。所属というのは、自然に「私はここが大事」という、そういう意識を持たせる、所属意識はとても大事でそれがないと無関心になってしまう。

(若林委員)

今は無理やり学校に引っ張って行って、教室に居なさい、という対応なので学校に行きづらくなる子が増えている。

(雨宮委員)

日本以外の国にルーツのある親は、日本の教育環境で育った子どもとコミュニケーションをとりにくいという話を聞く。そのような親たち同士のコミュニティはあると思うが、そのような親が一定数いるような地域では公民館が所属意識を育むような役割を担っても良いのではないかと思う。そうすることで地域の公民館のカラーが出るのではないか。

(若林委員)

外国籍の児童が3.4人いるクラスがあると聞くと、それだけ増えているのだと思う。一部ではどうしてもコミュニケーションが上手に取れない、クラスの運営がうまくいかないこともあると聞いている。そうなってしまうとその子たちも苦しくなっていくと思う。

(秦野委員長)

英語圏以外の言語では学校がお知らせを翻訳してお伝えすることは難しい。クラスの連絡を回したくても言葉が分からなくて困っているお母さんもいるかもしれない。例えば、月に1回または隔月に公民館の部屋で、「隣の人と話せるスペイン語」のような事業があっても良い。主催事業イコール講座ではなく、そういうスペースを作り自由に来てもらう。毎月この日はスペイン語で話す日とか決めて、コミュニティの人が自由に来て喋ってもいいし、そこに日本人が来て教えてもらうとい

うことがあってもいい。「先生が来ました」と教えてもらう講座ではないということも提案できたら良いと思う。団体登録しないと使えない、予約しないと使えないということではなく、この時間はこのスペースに来て、好きなように喋って大丈夫、ということが提案できたら良いと思っている。

(雨宮委員)

各国の料理作って食べる機会があっても良いのでは。

(若林委員)

コロナでそういうロビー的なところを全部閉鎖していたのを、部分的に開放し始めたということは、ヒアリングに行った公民館でも聞いているので、そういうスペースはオープンにしていって、誰でも立ち寄れる開かれた公民館になると良い。

(秦野委員長)

そのようなことも具体例として挙げつつ、「こうであればできる」ということを提案できると良い。場について、場の中身については多くの意見が出ているが、今まで意見が出ていないのは人財について。ヒアリングでは人財はいます、大丈夫ですと言っている館もあるが、それは講師を選ぶのに困っていないから大丈夫と言う意味で言っているのだと思う。しかし、あと少し磨きをかければ居場所ができたり、大人が新たな役割を持てたり、何年間も培ってきた知識を地域で使えるようになってたりできると思う。そのような意見はあるか。

(若林委員)

私がヒアリングに行った公民館の館長からは、地域人財の情報が掴めないため、見つけにくいと聞いている。

(大谷副委員長)

人材バンクではないが、そういうこともやっていかないといけない。地域の人財を発掘するというか、登録していただくようなことも必要だと思う。

(雨宮委員)

全部つながっている気がする。地域にどんな人がいるか、見えない社会になっているが、自然と人が集まるようになれば、周りには色々なことができる人たちがいて、そういう人たちに「公民館を手伝ってよ」というサイクルができて、それを手伝っているうちに、その人のアイデンティティも生まれてくる。そのように全部がつながっていく話だと思う。数という話ではないが、まずは色々な人が集まる、その中で段々人財が見えてくる。その人自身が直接できなくても、来た人の知り合いのようにネットワークで広がっていくと思う。

(秦野委員長)

まず、人が集まることで人の顔が見えるようになる。公民館で集まって喋っているうちに「この人はこんなことができるんだ」となる。しかし、一方で市民が参画

して公民館を運営していくという仕組みがあるものの、新陳代謝が無いのでその仕組みを活かしきれていない。色々な人、若い人が参加していくことでこの仕組みが活かせると思う。様々な世代に来てもらうことで顔が見えるようになる、そのような提案をすることで人財をより輝かせることができるという柱でいけると思うがそれで良いか。

(水谷委員)

個人情報の問題もあると思うが、公民館に人財募集のチラシを置いて自分で記入するような方法はどうか。得意なこととかデータを集める、人財登録制度というのか、そういうのを作っても面白いと思う。もう1つは公民館の1つの部屋を、例えば何月何日の夜は「あるテーマについて、興味のある方はその部屋を何でもいいから使ってください」という提案をするのも面白い。

(秦野委員長)

いきなり「人材バンクを作りましょう」と言っても難しいと思うが、水谷委員の意見で特技の拾い方を工夫すればできるのではないか。

(大谷副委員長)

公民館は夏休みになると期間を決めて小中学生に開放している。それと同じ要領でいろいろできるのではないかという気がする。ちょっと使いたいという人にとっては不便かもしれないが、あまり使われない時間帯があればそのような使い方ができると良いかもしれない。

(水谷委員)

公民館を変えるというアピールはよいが、資料には変化を好まない傾向とあり、そういう方もいるので、あまり変化、変化と言ってしまうとこの方たちはどう思うか。変化する部分もあるが、安定して変えない部分もあるというニュアンスがあったほうが良いのではないか。それをどのように表現するかが難しいとは思いますが。

(秦野委員長)

表現に工夫が必要かもしれない。「全て変えてくださいとか、今までのやり方がダメだからこうしてください」ではなく、今までの良さを生かすために「ここを少し変えると良いかも」というようなニュアンスで表現するなど。

(若林委員)

公民館の未来を見据えた中で、良いところは残しつつ、新しいことも取り込まなくてはいけない時代になっている、というつなぎ方はどうか。まして、コロナが落ち着いてきてということもあるので、コロナにも触れて人とのつながりをという感じを出していかないと。

(秦野委員長)

変化を望まないというのは、現在のやり方でもそこそこ人が集まるからそれで良いという感覚があるのではないか。

(若林委員)

どうしても人数にとられる、参加人数を気にしてしまうと聞いている。

(秦野委員長)

大変な思いをして誰も来ないより、この講座をやれば、ウォーキングやれば、何人かは集まるからそれで良いとなってしまう。しかし、参加している人にとってはまさにそれが生き甲斐かも知れないので、そのやり方がダメだということではない。そのやり方もあるが、違う層の人にも来てもらいたいから、そのためにはこうすれば良いという提案をしないと受け入れられない。

(若林委員)

参加人数ばかり考えてしまうが、本当にコアな世界の専門の人がいて、例えば参加が1人でも2人でもいいから、趣味、特技を持って人を集めた講座をやりたいという意見があった。参加人数にこだわらない、本当にコアな専門的な機械をいじるとか、そういう人たちを対象にした事業を企画できたらという意見もあり、参加人数が多ければ大成功とは考えていない職員もいる。

(古矢委員)

固定メンバーによる事業活動の硬直化を改善するような取組として、2年交代で企画のメンバーを入れ替える、そういうやり方をしていたところもあった。そういうのを参考例にすると良いと思う。

(秦野委員長)

改めて確認するが、報告書の大まかな構成案の原案を事務局と相談して各委員にお送りし、ご意見いただいたうえで定例会に提示する。それから、中身を3本柱に沿えるように、今回も貴重な意見をいただいたのでそれを引き寄せるとこんな感じになりそうだというのを事務局に作っていただき、それを定例会に提案する。

そこでも意見があるだろうが、広がりすぎないようにある程度枠を整理をして、こういう問題にはこういうやり方、部屋の貸し方はこうなると良い、講座の中身はこういうのが良い、研修はこういうやり方であれば予算がなくても中身が良いのができるなど、そういう話し合いが定例会でできるように、古矢議長と私と事務局とで整理させていただくということによいか。

(全委員)

反対意見なし

(秦野委員長)

これは違うとか、ここで整理されていることは本当はこういうことだ、などご意見をいただきたい。定例会の前に1度案が届くと思うので、ご意見を返していただき、それを基に定例会で議論したい。以上2点で良いか。

(全委員)

反対意見なし

(秦野委員長)

ありがとうございます。事務局から何か。

事務局から小泉勇委員については4月をもって退任され、校長会から新たな委員の派遣があったことを報告。また、大谷副委員長から次回の市公民館連絡協議会総会で会長が交代になるため、今回の小委員会を以て社会教育委員を退任する報告と挨拶があった。

以 上

社会教育委員会議小委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大谷 政道	相模原市公民館連絡協議会会長	副委員長	出席
2	若林 由美	一般社団法人星と虹色な子どもたち 相模原支部役員		出席
3	秦野 玲子	RE Learning代表	委員長	出席
4	古矢 鉄矢	北里研究所参与		出席
5	水谷 英正	公募		出席
6	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク 相模原市子ども・若者自立サポート 事業総括		出席